

# 第22回農業機械士全国大会

7月9～11日・京都  
14氏に功労者表彰



清水幸三会長

「第22回農業機械士全国大会」が7月9日から11日までの3日間、京都のリーガロイヤルホテル京都で開催された。同大会は毎年、開催地を変えて開かれているもので、今年で22回目を数える。

「我こそ機械化農業の柱なり」という自負を持つ農業機械士達約250名が全国各地から京都に大集結し、3日間に渡って「農作業安全活動における農業機械士のはたす役割について」を大会テーマとし、農作業安全活動と農業機械士の関わりについて、農業機械士活動推進会議等を通じて協議した。

大会に参加した北海道の岡部会長は「大会を通じて多くの人達に会い、お互いの農業経営向上に役立てることが重要」と語りながら、全国組織に加入以来、集めた各府県会長の名刺を披露してくれた。また、茨城県の農業機械士は、ほとんど夫妻で参加し、大会前に夏の京都を堪能していた。茨城県の和田前会長は「年一度の大会。それぞれ一つの節目を作っていくために参加している。この大会を楽しみにしている人は沢山いる」と語っていた。

全国大会は、全国農業機械士協議会役員、全国農業機械士協議会第22回通常総会、農業機械士活動推進会議分科会（第一分科会は「農業機械の利用、改良、整備と農作業」、第二分科会は「農業機械士活動の目指すものと農作業安全」、そして第22回農業機械士全国大会式典。そのあと農業機械士活動推進会議、基調講演「二十一世紀を覗んだ稲作主業型大規模経営の可能性について」、情報交換会。（また、府県農業機械士協議会によるパネル展示を実施）。最終日にはJAA京都中央コンプレックスなどを現地視察した。

同大会に先立って開催された通常総会で、明年の全国大会を新潟県で開催することを決めた。

メインの全国大会式典は午後1時から

開催。席上、清水幸三会長は「全国に7万人の認定農業者がいる。自分達の英知をもって日本農業を支えている。農作業安全運動を推進しているところだが、死亡事故ゼロをめざしていきたい」と語り、引き続き京都府の岡本久世会長が歓迎の挨拶をした。

来賓として出席した農林水産省農産園芸局肥料機械課の桑名隆文課長は農業機械士が地域のリーダーとし活躍していることを力強く思う、と語りながら、「新しい機械開発に取り組んでいるがそうしたものを現場でうまく使っていくことが重要。先頭に立ってやっていただきたい」と語り、さらに「農作業事故を無くす努力をしていかなければならない。現場での協力が不可欠なものと考えている」と述べ、農業機械士の活躍に謝意を述べながら第22回全国大会を祝した。

席上、第十三回功労者表彰を行い、以下の人々に感謝状、表彰状が贈られた。（敬称略）

◇感謝状（県農業機械士組織会長推薦）3名  
▽小野 清（栃木県農業機械士協議会・県農業大学校教授）  
▽深山政美（富山県農業機械士会幹事）  
▽泉 裕巳（沖縄県農業機械士会顧問・琉球大学名誉教授）

◇表彰状（全国農業機械士協議会会長推薦）1名  
▽岡本久世（京都府農業機械士協議会会長）

◇表彰状（府県農業機械士組織会長推薦）10名  
▽菊池政雄（岩手県農業機械士連絡協議会顧問、全副会長）  
▽佐々木良司（宮城県農業機械士協合理事）  
▽佐藤松茂（秋田県農業機械士連絡協議会理事）  
▽小室和彦（茨城県農業機械士協議会会計・前理事）  
▽福島光義（群馬県農業機械士協議会理事）  
▽田村耕一（千葉県農業機械化経営振興会前理事）  
▽山下 弘（京都府農業機械士協議会前会長）  
▽森永孝明（香川県農業機械士連絡協議会大川地区機械士会監事）  
▽栗下章二（宮崎県農業機械士会副会長）  
▽川野季寿（鹿児島県農業機械士連絡協議会顧問、前会長）



選出された全国農業機械士会の新役員